

福島の建造物 紙模型で紹介 千葉の生徒

県内の橋や砂防ダム、スポーツ施設などをモデルにしたペーパークラフト（紙模型）が、千葉市の渋谷教育学園幕張中・高で9月に開かれた文化祭で展示された。県がホームページで公開しているキットを同校模型同好会の生徒たちが組み立てたもので、土木建築の構造や紙工作の造形の魅力を通して、来場者に本県の情報を発信した。

本県の建造物のペーパークラフト作りは、郡山市出身で同好会顧問の遠藤龍介教諭が提案して実現した。同好会メンバーのうち、部長の佐藤秀則さん（高校3年）と小椋

咲奈さん（同2年）ら4人が、あづま球場（福島市）や水沼橋（金山町）、千五沢ダム（石川町）など10点を作って展示。文化祭は2日間で約1万3千人が来場し、ペーパークラフトにも多くの人が見入ったという。

鉄道ファンで本県のJR常磐線などにも乗車経験があるという佐藤さんは、各模型の説明や所在地などを調べて本県の地図上に示したパネルも1人で作り、展示に添えた。「（活動を通して）福島に興味を持ったのでまた訪れたい」と話す。小椋さんは「千五沢ダムのラビリンス型の水門が特徴的で



県土木課のサイトからダウンロードしたペーパークラフトを組み立てて文化祭で展示した渋谷幕張中・高の模型同好会のメンバー（前列左が佐藤さん、同右が小椋さん）

面白かった。福島県の魅力的な施設を知ることができた」と振り返った。遠藤教諭は「パネルを作るなど活動に広がり生まれ、提案して良かった」と総括した。